

# 第8回 おいしい水づくり推進懇話会 ＝ 議 事 録 ＝

日時：平成22年3月26日(金)

午後1時30分から午後4時30分まで

場所：水道局ちば野菊の里浄水場会議室

## 1. 第8回推進懇話会開会

事務局より開会宣言

## 2. 局長挨拶

年度末のお忙しい中、推進懇話会にご出席いただき、誠にありがとうございます。当推進懇話会も今回で8回目を迎えることが出来ました。皆様方のお力添えをいただきながら、「おいしい水づくり計画」も順調に推進しております。

本日は、「残留塩素濃度の低減化」や「取組みのPR」など、平成21年度における各種施策の実施状況、また、「インターネットモニターアンケートの調査結果」などについてご報告させていただきます。併せて、水質目標の一つである「トリクロラミン」について、前回皆様に「利き水」をしていただきましたが、その調査結果についてもご報告させていただきます。報告後、皆様から忌憚のないご意見・ご感想をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

話は変わりますが、千葉県水道局では、本日と28日に千葉と松戸で「桜の季節の見学会」を開催しております。見学会では、土木学会から土木遺産に選奨された「千葉高架水槽」と「栗山配水塔」の敷地を開放し、お客様に楽しんでいただいております。本日既にご覧になった方もおられるのではないかと思います。配水塔の上から見ると趣があって一段と美しいものです。残念ながら今週は冷え込んだため、開花は少し遅れているようですが、日曜日になれば少し咲いてくるのかと思いますので、是非一度、配水塔のバルコニーからご覧いただければと思います。

最後に、本日今年度最後の懇話会となります。1年間、ご協力いただきありがとうございました。また、来年度についても引き続きご協力をお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

## 3. 座長挨拶

午前中「桜の季節の見学会」を見学して、午後懇話会を開くという話をいただき、すぐに賛成させていただきました。残念ながら桜はもう少しとあったところでしたが、毎年楽しみにしているイベントなので、これからも続けていただければと思っております。

ちば野菊の里浄水場はきれいですね。ここも見学の対象になればいいと思います。

今年度最後の懇話会ですので、皆さんにたくさん意見をもらえるように進行していきたいと思っております。

## 4. 委員紹介・出席状況報告

## 5. 配布資料説明

## 6. 議題

「おいしい水づくり計画」に基づく主な施策の取り組みについては、配布資料により概要を説明した。

各議題の概要及び質疑・主な意見等は以下のとおり。

- ①「残留塩素濃度低減化について」（資料-1）
  - 浄・給水場系統別の残留塩素低減化実施状況
  - 塩素多点注入方式の基礎調査
  - 水質自動監視装置の増設
  - 水温別管理方法の見直し（3段階から4段階へ）
  - 今後の計画
- ②「おいしい水づくりの取り組みのPRについて」（資料-2）
  - インターネット・マスメディアを活用したPR
  - 浄水場見学会・まちかど水道コーナー（冷やした水道水の試飲結果）
  - 水道出前講座
  - 平成22年度のPR計画
- ③「お客様の意識調査」について（資料-3）
  - 平成21年度インターネットモニターアンケート調査結果
  - 平成19～21年度アンケート調査結果の経年比較
- ④「ウォーターメイトの状況報告」について（資料-4）
  - 平成21年度の調査結果
  - 残留塩素低減化に伴う調査
- ⑤「おいしい水に関する水質の状況」について（資料-5）
  - おいしい水に関する水質目標の平成21年度達成状況
  - トリクロロミンに関する調査
  - 利き水（におい）の結果
- ⑥その他
  - 水道局マスコットキャラクター「ポタリちゃん」の着ぐるみを披露
  - 千葉国体PR用ペットボトル  
「ゆめ半島千葉国体・ゆめ半島千葉大会記念ウォーター“ちばポタ”」の紹介

## 7. 懇談

主な質疑・意見等は以下のとおり。

### 1) 残留塩素の低減化関係

（委員）

水温別管理方法の見直しの、3段階から4段階とはどういうことか？

（事務局）

浄・給水場出口における残留塩素濃度について、従来は、冬期（15℃以下）、春・秋期（15～20℃）、夏期（20℃以上）の3段階に分けて管理していたものを、今後は、冬期（15℃以下）、春・秋期（15～20℃）、夏期（20℃～25℃）、最夏期（25℃以上）の4段階に変更し、よりきめ細かく管理するようにした。

（委員）

資料には低減値ではなく、管理値を載せたほうが伝わりやすい。

（委員）

残留塩素低減化が全部ブロックで行われる予定である来年度の資料を作るときには、

どのくらい残留塩素が下がったとかを地図に色で示すと分かりやすいと思う。

(委員)

12月・3月に低減化を行って給水場での管理値は下がっているが、千葉県水道局で調べた給水栓末端の数値はどのくらいになっているのか。

(事務局)

北船橋系統では広い範囲だが到達時間が短かったため、給水場を出てからほとんど下がらず、データとして0.4mg/Lを下回るところはなかった。水質自動監視装置のデータや給水栓末端での測定結果を見ながら、管理目標値が適切かどうか見ていきたい。特に、低減化試験を実施していない夏場は暫定値なので、年間通してのデータを見て管理目標値が適切かどうか判断していく。

(委員)

今度データを出してもらう際には、低減化していくつ下がったというのと、浄・給水場を出るときにいくつ、末端でいくつというふうに出すとわかりやすいのではないかと思う。次は中間年なので、より詳細なデータを見たい。

(委員)

おいしい水の水質状況から、平成22年度の中間目標が残留塩素0.1~0.6mg/Lであるが、現時点で0.7 mg/Lあってこのままで達成できるのか。

(事務局)

今年度は12月に誉田系、3月に北船橋系と、安全性の確保のため低減化は冬に実施している。そのため、低減化を実施した次年度には結果が出る見込みである。22年度も残りのブロックの低減化を実施して、23年度までには目標を達成できると思われる。

## 2) PR関係

(委員)

精力的に活動していると思う。出前講座がだいぶ大変そうに感じる。

(事務局)

中盤からは一部業務委託して行った。次年度は5月からできるだけ多く対応したいと考えている。

## 3) アンケート関係

(委員)

アンケートの「水道局に力を入れて欲しい項目」について、「高度浄水処理」はだいぶ話題になって周知されていると思うが、「経年管の更新」などが高いのが気になった。

これはどのようなアンケート方式か？おいしい水に直接関係するアンケートなのか？

(事務局)

いくつもの項目が並んでいる方式で、複数選択可になっている。アンケートの取り方は「水道水についてお尋ねします」という聞き方をしている。

(委員)

「産・学・官共同研究」といったお客様にあまり馴染みのない項目が含まれているのが気になった。このアンケートは、おいしい水づくり推進室で作成されたものなのか？

(事務局)

当室の希望を受けて、「広報・広聴」の担当部署が案を作成している。おいしい水づくり計画の策定に伴い、質問項目を整理した。「産・学・官共同研究」といった項目については、分かりにくいかとは思いつつ、計画との整合性をとりそのまま使用している。

(委員)

おいしい水で力を入れている割には、「残留塩素の低減化」を期待するお客様の声は年々下がっているのが気になった。その一方、経年管の更新を望む声が高いのは、お客様の意識が「おいしさ」よりも「安全」を重視する方向に戻ってきているのではないか。

(委員)

「残留塩素の低減化」を期待する回答について、19年度では37%あったものが、年々下がって21年度では19%まで落ちている。これは、残留塩素の低減化が順調に進んでいることが認知されてきた結果、下がってきているとも考えられるのではないかと。

(委員)

質問項目を見直す必要があるか、検討されてはいかがか。

(委員)

現在のアンケートは水道局で行っているが、もし予算があれば、第三者機関に委託してインターネット等から客観的にアンケートを取ってみても面白いのではないかと。

(委員)

母数の大きいインターネットアンケートも、ウォーターメイトと同様に給水区域ごとに比較できるといいと思うのだが。

(事務局)

インターネットモニターは業務振興課が担当しているので、可能かどうか確認したい。

#### 4) ウォーターメイト関係

(委員)

残留塩素低減化試験の調査に協力いただいたウォーターメイトのうち、何名が受水槽を利用し、何名が直結給水を利用しているのか？

(事務局)

今回の調査に協力いただいた方のうち、誉田系は6名中4名が受水槽、2名が直結給水を利用し、北船橋系は6名中5名が受水槽、1名が直結給水を利用している。

(委員)

北船橋系の6名中5名が受水槽を利用していたことについて、各系統の受水槽と直結給水利用者の人数を均等にできないのか？

(事務局)

ウォーターメイトは、62ブロックから1名程度選定している。貯水槽利用者と直結給水利用者の全体的なバランスは見ているが、各系統でバランスを取るとなると難しい。

(委員)

妙典系については、末端給水栓までの到達時間は長いのか？

(事務局)

半日程度で、それほど長いわけではない。

#### 5) おいしい水に関する水質関係

(委員)

冬場にトリクロラミンは高くなる傾向があるということは、冬場ににおいが気になるということか。

(事務局)

においを感じやすいのは気温が高くなる夏場だが、トリクロラミンは冬場に高くなりがち。水温が低いので、トリクロラミンが高いからといって、必ずしも蛇口から感じるとは限らない。

(委員)

利き水の水温は安定しているのか？

(事務局)

利き水を行う際は、およそ15℃程度で調整している。普段は水をあたためてにおいを嗅ぎやすくしているが、今回は冷蔵庫から出してそのまま嗅いでもらった。

(委員)

今回、トリクロラミン調査データを細かく提示してもらえたのは良かった。

水温によってトリクロロミンの閾値を出す検討してみてもどうか？

たとえば、冬場はトリクロロミンが高くなる傾向だが、においを感じにくいので、夏よりも目標値の設定を高くするとか、冬と夏でそれぞれ目標を設定してみてもどうか？

また、水温と味とクロロミン濃度の関係に個人的に興味がある。

(委員)

分析方法の検討とあるが、それはDPD法の測定誤差が大きいからか？繰り返し精度が良くないのか？

(事務局)

分析の精度は比較的取りにくいものではあるが、一定の水準では行えている。ただし、DPD法による作業が煩雑なため、機器分析で行えないかどうか検討したい。

(委員)

総THMについて、20年度で96%だったが、21年度で81%と下がっているのはなぜか？

(事務局)

総THMは水温が高い夏場ほど高くなりやすい。また21年度のデータはまだ年度途中のものである。年度末のデータを入れれば前年度と同じくらいになると思われる。

## 6) 着ぐるみ・ペットボトル水「ちばポタ」関係

(委員)

ポタリちゃんの着ぐるみについては、以前から期待していたが、とうとう実現してうれしい。また、想像以上にかわいく出来ていると思う。

(委員)

すごくかわいい。また、写真うつりもきれい。

(委員)

どのような時に着ぐるみが登場するのか？水道出前講座などに参加する予定は？

(事務局)

明日(3月27日)、千葉ニュータウン中央駅広場で行われる「ほくそう春まつり」というイベントに登場する予定である。

水道出前講座については、小学校にポタリちゃんが登場すればとても盛り上がると思う。しかし、子供達が盛り上がり過ぎて混乱するおそれもあるので、少し難しいのではないかと考えている。

(委員)

「ちばポタ」と従来のポタリちゃんのアルミボトルとは、どのように使い分けるのか？

(事務局)

「ちばポタ」は、「ゆめ半島千葉国体・ゆめ半島千葉大会」のPR用として、水道事務所や県庁生協等で1本100円で販売している。

「ポタリちゃん」のアルミボトル水は、浄水場見学会や水道出前講座など国体以外のイベントPR用として無償配布するほか、備蓄用としても位置づけている。

## 7) その他

(委員)

PRでは“安全でおいしい”の、“おいしい”に力を入れている気がする。それに比べて“安全”のPRが希薄な気もするので、もっと“安全”に力を入れたほうが良いのでは。

(委員)

水道水に関する記事を読んで、鵜呑みにする人は多い。おいしくするのは技術だろうが、安全であることを知らせるためにもPRに力を入れていくことも大切。

(委員)

浄水器訪問販売が減ってきているかわりに、ネット販売で浄水器を買う人が増えている。水道水は安全・安心ということをもっとPRするべき。

(委員)

“安全”については技術よりもPRが重要。

(委員)

お金を払って飲んだミネラルウォーター等のほうがおいしいと感じるのは当然である。水道水がそのまま飲めない国のこととかを考えたら、あまり贅沢は言っていない。

子供に水道水は飲んじゃいけないと言う親に、出前講座を受けた子供から水道水に関する正しい情報が伝わることも期待できるのではないか。

(委員)

ミネラルウォーターは水道水がまずいというところから注目が集まった。水道水が改善されてきて、次にミネラルウォーターが注目したのはミネラルや栄養分。体にいいことを売りにするなど、飲み水というよりは嗜好品になりつつある気がする。

(委員)

水道水は国の水質基準を満たしており、元々安全である。安心はお客様が感じること。

(委員)

世の中情報があふれているので、取捨選択は個人に任されている。インターネット・雑誌・新聞等どれを信じるかは本人次第。あとは、情報の出し方が重要になってくるのではないか。

## 8. その他

(事務局)

次回の開催は来年度の6、7月を予定しているが、改めてメール等で連絡する。議題は平成22年度の取り組み状況等を考えている。

(了)